

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月13日

【四半期会計期間】 第98期第3四半期(自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)

【会社名】 日本トランスシティ株式会社

【英訳名】 Japan Transcity Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小川 謙

【本店の所在の場所】 三重県四日市市千歳町6番地の6

【電話番号】 四日市059(353)5211(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 福村 隆宏

【最寄りの連絡場所】 東京都港区高輪三丁目23番17号  
品川センタービルディング

【電話番号】 東京03(6409)0382(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 古井 直樹

【縦覧に供する場所】 日本トランスシティ株式会社 中部支社 名古屋支店  
(名古屋市中村区名駅南一丁目16番28号  
NOF名古屋柳橋ビル)

日本トランスシティ株式会社 関東支社 東京支店  
(東京都港区高輪三丁目23番17号  
品川センタービルディング)

日本トランスシティ株式会社 関西支社 大阪支店  
(大阪市中央区南本町三丁目6番14号 イトウビル)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第97期 第3四半期 連結累計期間		第98期 第3四半期 連結累計期間		第97期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)		61,149		62,568		80,853
経常利益	(百万円)		3,563		3,807		4,285
四半期(当期)純利益	(百万円)		2,154		2,390		2,427
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		1,859		2,582		2,059
純資産額	(百万円)		37,451		39,587		37,636
総資産額	(百万円)		88,847		88,392		88,498
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		33.20		37.01		37.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		41.0		43.6		41.3

回次		第97期 第3四半期 連結会計期間		第98期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年10月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		13.53		15.00

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第97期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、総合物流事業において、倉庫業では、倉庫保管残高は前年同期に比べ若干増加し、入出庫にかかる取扱量は前年同期に比べ減少した一方、物流加工業務にかかる取扱量が大幅に増加しました。港湾運送業では、四日市港におけるコンテナ貨物の取扱量は前年同期並に推移し、輸出自動車ならびに輸出貨物の取扱量は、東日本大震災や円高等の影響により、前年同期に比べ大幅に減少しましたが、輸入原料のうちサイロ貨物にかかる取扱量が増加しました。陸上運送業では、主力のトラック輸送ならびに環境に優しい物流として取り組んでいるバルクコンテナ輸送の取扱量は、東日本大震災の影響により、前年同期に比べ、ともに減少しました。国際複合輸送業では、海上輸送の輸入貨物にかかる取扱量は前年同期に比べ増加しましたが、航空輸送の取扱量は、前年同期に比べ減少しました。このような状況により、総合物流事業全体の売上高は、前年同期比2.2%増の616億7千3百万円となりました。

その他の事業につきましては、依然として厳しい環境下ではありましたが、業務の効率化や収支改善に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、前年同期比2.3%増の625億6千8百万円となりました。連結経常利益は、前年同期比6.9%増の38億7百万円となり、連結四半期純利益は、前年同期比11.0%増の23億9千万円となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### 総合物流事業

総合物流事業全体の売上高は、616億7千3百万円と前年同期に比べ13億3千8百万円(2.2%)の増収、セグメント利益（営業利益）は33億5千1百万円と前年同期に比べ1億9千4百万円(6.2%)の増益となりました。

#### < 倉庫業 >

当部門におきましては、期中平均保管残高は45万2千トンと前年同期に比べ若干増加しましたが、期中貨物入出庫トン数につきましては、前年同期比4.1%減の477万3千トンとなりました。これに伴い、保管貨物回転率は58.6%（前年同期62.3%）とやや鈍化しました。一方、物流加工業務に関する取扱量は大幅に増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比8.3%増の250億3千9百万円の計上となりました。

< 港湾運送業 >

当部門におきましては、四日市港における海上コンテナの取扱量は前年同期並の15万1千本（20フィート換算）となりました。また、輸出自動車ならびに輸出貨物の取扱量は前年同期に比べ大幅に減少しましたが、輸入原料のうちサイロ貨物にかかる取扱量は増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比0.0%減の160億8百万円の計上となりました。

< 陸上運送業 >

当部門におきましては、主力のトラック輸送にかかる取扱量は前年同期比3.2%減の551万9千トンとなり、環境に優しい物流として取り組んでいるバルクコンテナ輸送の取扱量も前年同期比17.0%減の12万9千トンとなりました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比3.1%減の126億8千9百万円の計上となりました。

< 国際複合輸送業他 >

当部門におきましては、海上輸送における取扱量は、輸入貨物の取扱いが増加したことにより、前年同期比8.5%増の108万2千トンとなりましたが、航空輸送における取扱量は前年同期比18.3%減の1,564トンとなりました。

以上の結果、当部門の売上高は、円高や長距離輸送の減少の影響により、前年同期比2.2%減の79億3千6百万円の計上となりました。

その他

自動車整備業における車検取扱台数は前年同期比微減となりましたが、ゴルフ場の入場者数は前年同期並に推移し、建設業におきましては、工事案件の完成により売上が増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、8億9千4百万円と前年同期に比べ8千万円(9.9%)の増収、セグメント利益(営業利益)は6千9百万円と前年同期に比べ3千6百万円(34.1%)の減益となりました。

(2) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社または提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(5) 生産、受注および販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注および販売実績の著しい変動はありません。

(6) 主要な設備

< 重要な設備の新設の計画 >

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定年月	延床面積
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出会社	三重県 四日市市	総合物流事業	倉庫設備	1,030	-	自己 資金	平成24年 1月	平成24年 7月	9,200m <sup>2</sup>

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	240,000,000
計	240,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	67,142,417	67,142,417	名古屋証券取引所 (市場第一部) 東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	67,142,417	67,142,417		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日		67,142		8,428		6,544

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年9月30日現在で記載しております。

## 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,653,000		単元株式数は1,000株であります。
	(相互保有株式) 普通株式 24,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 64,020,000	64,020	同上
単元未満株式	普通株式 445,417		
発行済株式総数	67,142,417		
総株主の議決権		64,020	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

## 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本トランスシティ株式 会社	三重県四日市市千歳町 6番地の6	2,653,000		2,653,000	3.95
(相互保有株式) 四日市梱包株式会社	三重県三重郡川越町亀崎 新田下新田77番地の31	11,000		11,000	0.02
多度開発株式会社	三重県桑名市多度町古野 字木ノ元33番地の2	11,000		11,000	0.02
高橋梱包運輸株式会社	神奈川県座間市入谷 四丁目2784番地の37	2,000		2,000	0.00
計		2,677,000		2,677,000	3.99

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)および第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,887	10,638
受取手形及び営業未収金	12,543	14,240
たな卸資産	96	101
その他	1,930	2,284
貸倒引当金	16	18
流動資産合計	26,439	27,246
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,219	14,351
土地	29,817	29,802
その他（純額）	3,285	3,020
有形固定資産合計	48,321	47,174
無形固定資産	726	1,113
投資その他の資産		
投資有価証券	9,500	8,986
その他	3,523	3,886
貸倒引当金	14	14
投資その他の資産合計	13,009	12,858
固定資産合計	62,058	61,146
資産合計	88,498	88,392



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1 7,504	1 7,782
短期借入金	3,750	3,141
1年内返済予定の長期借入金	885	7,779
未払法人税等	704	747
賞与引当金	997	478
その他	2,043	2,554
流動負債合計	15,885	22,483
固定負債		
長期借入金	22,832	15,353
再評価に係る繰延税金負債	5,277	4,619
退職給付引当金	1,665	1,643
役員退職慰労引当金	40	21
長期預り保証金	3,806	3,680
負ののれん	32	18
その他	1,319	983
固定負債合計	34,975	26,321
負債合計	50,861	48,804
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,428	8,428
資本剰余金	6,733	6,733
利益剰余金	24,338	26,179
自己株式	1,014	1,093
株主資本合計	38,485	40,247
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	266	150
土地再評価差額金	2,023	1,365
為替換算調整勘定	158	217
その他の包括利益累計額合計	1,915	1,733
少数株主持分	1,066	1,073
純資産合計	37,636	39,587
負債純資産合計	88,498	88,392

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	61,149	62,568
売上原価	53,888	55,254
売上総利益	7,260	7,313
販売費及び一般管理費	3,998	3,866
営業利益	3,262	3,447
営業外収益		
受取利息	13	17
受取配当金	120	131
持分法による投資利益	453	411
その他	80	114
営業外収益合計	667	673
営業外費用		
支払利息	286	270
その他	80	42
営業外費用合計	366	312
経常利益	3,563	3,807
特別利益		
固定資産処分益	15	18
負ののれん発生益	7	0
その他	0	-
特別利益合計	23	18
特別損失		
固定資産処分損	44	15
投資有価証券評価損	59	4
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	46	-
災害による損失	-	9
その他	14	2
特別損失合計	165	32
税金等調整前四半期純利益	3,421	3,794
法人税等	1,212	1,350
少数株主損益調整前四半期純利益	2,208	2,443
少数株主利益	54	52
四半期純利益	2,154	2,390

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,208	2,443
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	321	422
土地再評価差額金	-	658
為替換算調整勘定	27	96
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	349	138
四半期包括利益	1,859	2,582
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,808	2,571
少数株主に係る四半期包括利益	51	10

## 【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3 四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
税金費用の計算 税金費用については、当第3 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## 【追加情報】

当第3 四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
第1 四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 期末日満期手形

四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が四半期連結会計期間末日の残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形		55百万円
支払手形		47百万円

2 偶発債務

以下の会社等の銀行借入金について下記金額の保証を行っております。

(内保証予約)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
四日市港国際物流センター株式会社	337百万円 (337百万円)	四日市港国際物流センター株式会社
株式会社四日市ミート・センター	100百万円 ( 百万円)	株式会社四日市ミート・センター
四日市コンテナターミナル株式会社	359百万円 (359百万円)	四日市コンテナターミナル株式会社
従業員(住宅資金)	5百万円 ( 百万円)	従業員(住宅資金)
		Trancy Logistics (Shanghai)Co.,Ltd.
		112百万円 (112百万円)
		87百万円 ( 百万円)
		333百万円 (333百万円)
		4百万円 ( 百万円)
		12百万円 ( 百万円)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
減価償却費	2,140百万円	1,898百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	292	4.50	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金
平成22年11月12日 取締役会	普通株式	259	4.00	平成22年9月30日	平成22年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	291	4.50	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年11月8日 取締役会	普通株式	257	4.00	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

	報告セグメント	その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円) (注)3
	総合物流事業 (百万円)				
売上高					
外部顧客への売上高	60,335	813	61,149		61,149
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18	815	834	834	
計	60,353	1,629	61,983	834	61,149
セグメント利益	3,156	105	3,262	0	3,262

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産業・建設業・損害保険代理店・自動車整備・ゴルフ場等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額0百万円は、セグメント間取引消去0百万円によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

	報告セグメント	その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円) (注)3
	総合物流事業 (百万円)				
売上高					
外部顧客への売上高	61,673	894	62,568		62,568
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18	759	778	778	
計	61,692	1,654	63,346	778	62,568
セグメント利益	3,351	69	3,421	26	3,447

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産業・建設業・損害保険代理店・自動車整備・ゴルフ場等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額26百万円は、セグメント間取引消去26百万円によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 (算定上の基礎)	33円20銭	37円01銭
四半期純利益金額(百万円)	2,154	2,390
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,154	2,390
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,890	64,593

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

平成23年11月8日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(1) 中間配当金の総額 257,956千円

(2) 中間配当金の1株当たりの額 4円

(3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 平成23年12月5日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し支払を行っております。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月8日

日本トランスシティ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木	造	眞	博	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	奥	谷	浩	之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本トランスシティ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本トランスシティ株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。